

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101174
法人名	社会福祉法人 日新会
事業所名	グループホームあかし
所在地	〒 400-0831 甲府市上町2473 電話番号 055-226-3622

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成19年11月29日

【情報提供票より】平成19年10月1日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	6人 非常勤 3人 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	0 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(300,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要 平成19年10月1日 現在

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水医院、市立甲府病院、甲府城南病院、あいざわ歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年11月16日

このホームは2ユニットあり、甲府市南部に位置し、周りは果樹園が広がり、緑に囲まれた環境の中にある。同じ敷地内には、介護老人福祉施設も隣接している。ホームは開放的な雰囲気にあふれており、利用者の立場に立った視点での質の高い介護が管理者の意欲と熱意のある方針のもと、職員全体にもいきわたっている。さりげない会話の中から利用者の意欲がうまきひき出され、明るい笑顔や会話が随所に見られる。また、掃除や食事作りなど、家事に積極的に参加している姿が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議を通しホームが地域で理解されつつある中、認知症デイケアを開設するにあたり、市町村との連携を密にすることができた。今後、連携をとるにあたり、何を目標にもっていったらよいか検討中であり、他のグループホームの動きも視野に入れながら考えていく方向にある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、質の向上を目指す姿勢がうかがわれる。その中で質の高い介護を提供していくためには、現状より多くの職員の確保が必須と考えており、あらゆる機会をとらえ職員の確保にあたっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表・組長・家族代表・自治会長・民生委員・市介護保険担当者をメンバーとして、2カ月に1回毎開かれている。ホームが地域で担える役割を検討中、具体的には、地域の1人暮らしの高齢者をホームに招き、利用者と共に活動できる機会や場を作っていくことを考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) あらゆる機会を通して家族の意見・苦情・不安を引き出そうと努力している。苦情箱設置の他、第三者委員を設けている。毎月の便りの中に家族が何でも書ける欄を設けて意見を吸い上げている。また年1回家族会が開かれ、家族間の話し合いの場もできている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の行事には必ず出席し交流を深めている。また、毎月の便り「あかし」便りを自治会(36組)回覧するなどして、ホームの理解を深めてもらう努力している。日常の散歩の中で顔見知りになり、地域の人々に声をかけてもらう場面も多い。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームあかし

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく、自分らしく地域と共に歩む」をグループホームあかしの独自の理念として掲げて日々の介護の質の向上に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時、理念については職員全員で確認し共有し、日常業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事には必ず参加している。また、便りを時には自治会に回覧するなどして地域からの理解も深まるよう努力している。日常生活の中では、散歩で顔見知りになり、地域の人々に声をかけてもらう場面も多い。同じ組の美容院なども利用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が、理解し実施する中で介護の質の向上に努めている。外部評価についてもすぐ閲覧できる場所に置いておき、日々の介護の中に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの実状を報告するだけにとどまらず、地域からの意見も多く出される会議となっている。その中でホームが地域で担える役割を模索中、具体的には、地域の一人暮らしの高齢者と利用者が共に活動できる場や機会を作っていくことを考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	過去には、市町村との連携を密にとり、認知症デイケア事業を開設した。	○	
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者には担当職員がおり受け持ち制をとっている。家族へは毎月便り「あかし便り」と請求書を送付している。担当職員から便りに一言書く欄を設けて暮らしぶり、健康状態を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が、意見・不満・苦情が出せるよう、あらゆる機会をとらえる努力をしている。苦情箱の設置以外に第三者委員の設置も行っている。毎月の便りを送付する時には、何でも意見を書いてもらう欄を設けている。家族が面会時、何でも話してもらえよう、担当職員が対応できるようにし、利用者がダメージを受けないようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間の交流を通じて、職員間や利用者が顔見知りになり、何かの時には対応できるようにし、利用者がダメージを受けないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番で研修会に出席し、職員会議でも研修後報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回グループホーム協会の勉強会に参加している。その他のネットワークは今のところない。	○	近隣で開所予定のグループホームの見学を受け入れる予定があるので、今後近隣・同業者との交流が持てる様期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は2泊3日の泊りを体験してもらい安心感をもてるよう対応している。また、昨年4月からは、認知症デイケアを開設した為、デイケアの利用者が入所することも多くなってきているので、馴染みながらのサービス利用となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として介護者が利用者に相談する場面もあり、喜怒哀楽を共にしながら介護者が利用者に感謝することが多く見られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ちの担当介護者が、利用者および家族からのアセスメントシートをもとに情報収集をして、利用者の希望や意向を把握している。また言葉や行動からも思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受け持ちの担当介護者が、利用者の身体的精神的な面での気づきを個人記録に記録しておき、それを基に介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価は、1カ月毎に必ずし、確認している。通常は3カ月に1回の見直しをしている。変化については業務日誌から確認し、現状に即した対応をしている。現状では毎日の流れができていますので、穏やかに同じリズムで過している利用者が多い。時には不眠時、少量のアルコールの対応するケースもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族のいない利用者の墓参りに一緒に行ったり、通院など必要時は付き添ったりしている。また同じ敷地内のデイサービス施設にボランティアの歌を聴きに行ったり、デイサービス利用者と一緒に過したり、多機能性を生かした支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回のかかりつけ医の回診の他、随時、状況に対応している。また、他医療機関への通院介護も柔軟に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に説明し同意を得ている。今年7月、97才の利用者を看取った。職員が清拭をした経緯がある。あかし独自のマニュアルを作り2週間介護した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の折には、言葉かけに注意している。立ち上がった後何げなくフォローしている。玄関には個人情報取り扱い票が掲示してあり、職員全員が理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のリズムを大切にしている。不穏な時はスタッフ同士が協力し合う体制ができています。訪問マッサージを受けている利用者、週1回家族が来て外出したり、家に帰る利用者など、その人らしい暮らし方ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	動きやすい台所で広さも充分確保されているので、ほとんどの利用者が職員と共に食事の準備や片付けに携わり、きざんだり、味みをしたり、食器を出したり盛り付けたり、テーブルを拭いたりしている。職員も食事中、共に食卓を囲み、さりげない会話の中で暖かい雰囲気を作り出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	寝る前に必ず入浴する利用者もおり、時間帯に幅をもたせた対応ができています。気の合った利用者同士と一緒に入浴したり、時に、入浴拒否をする利用者に対しては、職員と一緒に入るなど対応に工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意な事や、昔の職業などから役割や楽しみごとを見い出して声かけをしたり感謝の気持ちを述べたりしながら、張り合いや喜びを感じられるように支援している。畑を担当している利用者、全員の洗濯物を干す利用者、以前ヘルパーをしていた利用者は、他の利用者の介護する事を生きがいにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	火・金は買い物の日、水曜は各ユニット毎に市外観光に出かけている。また月1回はユニット間合同で小運動会やバーベキューなどをして共に過している。また一人の利用者が外出し地域の方との関りがあり、りんごを頂いて来る場面も見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず利用者が出て行った時は、職員間で協力しながら見守りや声かけが行われている。また外部からも用事のある方が出入りしているので、開放的な雰囲気が作り出されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署を招き避難訓練をしている。また年に1回夜間想定訓練をしている。8月26日には地域の防災訓練に参加した。備蓄品は倉庫に供えてある。運営推進会議で地域の協力体制についての確認もできている。	○	今後も避難訓練の回数を増やし、何分で全員が外に出られるかや、避難通路の確保を検討していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に応じ、必要ならトロミをつけたり、ミキサー食にしている。また水分補給やカロリー不足にならないようチェック票に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、畳と掘りごたつのスペースもあり、のんびり昼寝をする利用者もいた。南側の窓からは明るい陽ざしも入っている。その先はデッキになっており開放的な雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物が持ち込まれており、住み慣れた自分の部屋という感じである。		